



発行：徳島県経営戦略部秘書課

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地 TEL088-621-2020 FAX088-621-2823
人口756,063人 男359,816人 女396,247人 世帯数305,098世帯 [2015年10月1日現在]

地域、人、空き家。すべてが最高の出会いでした。

空き家移住者 島津臣志さん

佐那河内村の空き家をリノベーション
のんびりとした時間が流れる田舎で暮らしたい。徳島市のマンションに住んでいたが夫婦の夢が叶ったのは、昨年6月のことでした。
「知り合いの紹介で、佐那河内村の移住交流支援センターに足を運んだのがきっかけで、市内からわずか数十分のところに、こんな場所があるんだって」
建築士としての足場を固めることを前提に物件を探していた島津さんは、自治体が運営する「空き家バンク」に登録、いくつかの物件を比較した結果、地元で呉服店を営んでいた商家を選別しました。
「居間の床をはがして事務所にするなど、これからの暮らし方を想定したリノベーションを行いました。予算を抑えながら自分好みに改修できるのも、空き家活用の魅力ですね」と島津さんは話します。

移住から半年ほどにも関わらず、今ではすっかり地域の一員となった島津さん。スムーズな移住を支えたのが、地元の自治組織「ねごう再生家の存在」だと言います。
「この根拠地区には、地元の若手たちによる移住支援組織があるんです。早い段階から色々とサポートをしていたので、移住後もスムーズに溶け込むことができました」
今では建築士としての村の空き家のリフォームを手掛けるなど、島津さん自身も地域の一員として活動。移住をきっかけに、活動の幅を広げています。
「近くの畑を借りて家庭菜園を手掛けるなど、妻も田舎暮らしを楽しんでいます」と島津さん。貸し手と借り手の想いが一つにつながることで、空き家活用が大きな可能性を持つことを教えてくれました。

空き家の価値を見極めればまちはもっと元気になる。

公益社団法人徳島県建築士会 常任理事 喜多順三さん

市町村ごとに実態調査を実施



空き家の活用を推進するため、県では全国で初めてとなる「空き家判定士」制度を導入。新年度からの始動に向けて準備が進められています。
「これまでの日本は、老朽化した建物を壊して新しい建物を作るという考え方でした。今後は人口や世帯の増加が見込まれるため、良質な既存住宅をいかして活用する」という視点が求められます。
空き家判定士は、県からの認定を受けた建築士で構成。市町村からの要請を受けて「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターと連携しながら、県内における空き家の実態調査を行う予定です。
「一次調査は、主に市町村に空き家がどれくらいあるかを確認し、2次調査でその状態を詳しく調べることになります」と喜多さん。建築の専門家として客観的に空き家の状態を判定することで、今後の活用を促進します。

地域の安全を守り未来を拓くために

空き家判定士による調査には、大きく2つの目的があります。一つは老朽化が激しい空き家を特定し、適切な処置へとつなげることで地域の安全・安心を守ること。もう一つが、空き家の活用による地域の活性化です。
「単に空き家の劣化度を調べるだけでなく、その歴史や建築物としての価値なども見極める必要があると考えています。また、そのデータを市町村がまちづくり施策として生かすことで、いろいろな可能性も生まれるはずです」
移住者の受け皿としてはもちろん、地域の自然環境を活かした宿泊施設や、高齢者居住コミュニティなど、空き家活用の可能性は無限に広がっていると喜多さん。徳島からの地方創生を実現するため、空き家判定士としての一歩を踏み出します。

「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターを開設しました！
空き家を活かして地方創生の一歩に。

徳島県内には、利用予定がなく長期不在となっている空き家が3万6千戸あるとされています。住宅戸数の約10戸に1戸が空き家となっており、今後もさらに増えていくことが予想されています。
県では、空き家の相談や調査、利活用の総合窓口となる「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターを1月末に開設。4月からスタートする「空き家判定士」制度の導入と合わせ、今後の課題解決に向けた取り組みを進めています。
この機会に空き家の所有者と利用者それぞれの立場から、空き家活用の可能性を見つめ直してみてください。



島津さんご夫婦の両脇に並ぶのは、移住を支えた地元住民。ご夫婦が安心して移り住むきっかけとなりました。



近隣の方も、空き家の改修を積極的にサポート。



空き家活用によって、古民家に再び明かりがともりました。

とにかく空き家のことならお気軽に相談してください。

住宅対策総合支援センター長 藤林弘茂さん



増え続ける空き家を地域の資源に

総務省の「平成25年度住宅・土地統計調査」によると、徳島の利用予定のない空き家は全国4位。少子高齢化や地域の過疎化などに伴って適切に管理され

れない空き家が増え、防災力や防犯力の低下、衛生面の悪化、景観破壊など、さまざまな問題を地域に引き起こしています。
このような状況の中、空き家の活用を含めた総合窓口として「とくしま回帰」住宅対策総合支援センターが、徳島市川内町に開設されました。

「住宅数は戦後から増え続け、今では世帯数を上回るようになっています。空き家を放置すれば負の財産になります。上手く活用すれば地域の活性化や定住促進につながることを目指しています。」

地方創生の一翼を担いたい

「空き家所有者が抱える売買や賃貸、リフォームはもろもろ相続や税金の悩みなど、とにかく空き家に関することなら何でも相談ください」と藤林さん。何らかの形で空き家を利用したい人に対して、しっかりと支援できるような体制を整えています。



支援センターには、相談コーナーも設置。

「古民家を改修してお店を開いたり、念願だった田舎暮らしを実現したりするなど、空き家活用のコーディネートも積極的に行いたいですね。もちろん、

空き家の利活用例



空き家を宿泊体験施設に再生(東祖谷・落合)

空き家に関する総合相談窓口

「とくしま回帰」住宅対策総合支援センター
TEL088-666-3124

●FAX / 088-666-3126 ●ご相談受付 / 平日9:00~17:00
●所在地 / 徳島市川内町平石住吉209-5
徳島健康科学総合センター3階 徳島県住宅供給公社内

http://www.tokushima-akiya.jp/

「とくしま空き家フォーラム2016」を開催します！

テーマ / 空き家の利活用による「とくしま回帰」の加速

●とき / 3月19日(土)13:30~ ●ところ / 徳島グランヴィリオホテル
●内容 / 基調講演、パネルディスカッション、空き家判定士認定式

お問い合わせ先 住宅課 TEL088-621-2594 FAX088-621-2871

ふるさと発見! あわっ子文化大使通信

あわ文化を次の世代に伝承し、徳島の魅力を県内外に発信する中学生「あわっ子文化大使」のレポートです。

神代御宝踊

[かみよたからおどり]

●あわっ子文化大使リポーター
●県立川島中学校 谷田りー



日例大祭で奉納されています。この踊りは、神のいさめの踊りとして京の都で踊られていたものが、豊年踊り、雨乞踊りとして習い伝えられたといわれ、県の無形民俗文化財にも指定されています。鉦と拍子木、音頭取りの唄に合わせて、巫女姿の地域の女の子が、手に持つ小さな太鼓を鳴らしながら踊ります。太鼓には和紙が貼ってあって優しい音色がします。



私は優雅で古風なこの踊りが好きで、小学校2年生から毎年踊ってきたので、リズムや踊りがすっかり身についた、いつでも踊れるようになりました。小学校6年生の平成25

年には、伊勢神宮式年遷宮の奉納行事に参加しました。今は、この踊りを踊る人がどんどん少なくなっている、いろいろなことに協力して御宝踊を広めていって、後世へと受け継いでいきたいです。皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしています。 ●教育文化政策課 TEL088-621-3163

野菜料理を+1

野菜摂取量UPをめざして
白菜も蒸し焼きで食べやすく 蒸し蒸しサラダ



①白菜は3cm角に刻み、ベーコンと同様に切る。
②鍋にベーコンと白菜を入れふたをし、中火弱で火をつけ、時々様子を見ながら火が通り始めたらふたを開け、水分を飛ばすようにしながら火を通す。
③塩コショウとバジルソースを混ぜたら、お皿に盛りつける。

【材料(2~3人分)】
●白菜...400g ●ベーコン...2枚
●塩コショウ...少々
●バジルソース...大さじ3
レシピ提供:料理研究家&とくしまブランド大使 浜内千波